

訪 日 の 感 想

陳 英梅 高雄市文化局文化中心管理處處長

公益財団法人交流協会「文化人短期招聘事業」では慣例を破り、私と高雄市歴史博物館館長王文翠の2人を6月24日から6月30日まで計6泊7日の深遠な日本文化体感の旅にお招き頂きました。

交流協会高雄事務所の野中所長、M主任、L職員及び東京本部のN副長などの事前の周到な計画、また確認によって、この文化交流日程を手配頂きました。訪問地域は関東から関西地域にまで及び、内容は民俗的な祭り、博物館、美術館、総合文化センター、各種劇場、有形無形文化財の保存、歴史建築の再利用等多岐にわたっております。毎日の食事配慮頂き、渡日前から日本人の心遣いと周到さを感じておりました。

6月24日正午に成田空港に降り立ち、到着ロビーを出ると、出迎えに来て頂いた東京本部のN副長とY通訳がすぐに私たちを捜し出してくれました。そしてそのまま茨城県の水郷・潮来市で最初の訪問地「水郷潮来あやめまつり」を参観致しました。利根川筑波公園に沿って500種にも及ぶ菖蒲の花が植えられており、幸運にも私たちはその祭りの最中に行われる「嫁入り舟」を見ることが出来ました。これは潮来で古来より行われている花嫁行事であり、日本の伝統的な衣服で着飾った花嫁が兄弟や媒酌人に付き添われながら音楽とともにゆっくりと花の中を歩き、岸辺の「嫁入り舟」へと向かいます。そして舟で新郎の家へと向かうのです。多くの方が水郷潮来あやめまつりの期間中にこの魅力的で伝統的な結婚の儀式に応募、参加しています。古式の花嫁儀式によって、観光価値を高めるとともに、当地の伝統的習慣を保存しているのです。

東京では、車で直接愛宕神社を参拝しました。

やはり参拝しただけあって、その後は雨に降られることもなく、気温も快適で、まるで天の庇護を受けたようでした（日程が終了する関西国際空港の待ち合いロビーで突然大雨が振り出し、まさに神の庇護があったとしか思えません）。初日の夕食は銀座で鹿児島黒豚のしゃぶしゃぶを頂きました。出発前にM主任が推薦していた料理ですが、さすが鹿児島の黒豚はその評判通りの味でした。

6月25日、午前中には東京文化財研究所を、午後には千葉県にある国立歴史民俗博物館を訪問致しました。研究所での交流及び博物館の参観では日本政府及び日本人による文化遺産の記録と保護の細やかさを深く理解することができました。交流の中で私たちは無形文化遺産部のM₁部長及び歴史民俗博物館のA副館長などの専門性の高さと仕事に対する熱い想いを知ることができ、またお互いに公演活動の広報に関する経験を話し合うことができました。

交流協会東京本部K部長により私たちが宿泊しているメトロポリタン丸の内ホテルで宴を催して頂きました。K部長の中国語はとても流暢でしたが、それは台湾のご内儀がいらっしゃるからであり、私たちは距離をすぐに縮められました。K部長は2013年4月に台北国家劇院で行われる宝塚歌劇公演にとっても関心がおありになるようで、私たちも台湾での宣伝活動に寄与したいと考えておりますし、初めての台湾での公演に輝かしい興行成績をもたらしたいと思っております。そして我々は高雄と日本が舞台芸術や展覧等の分野に於いてより多くの文化交流の機会を得られることを強く願っております。

26日の日程はとても充実したものでした。午前中に日本芸術文化振興会を訪れ、その後付近の

国立劇場と能楽堂を訪れました。国立劇場は千代田区（皇居付近）にあり、その設備は一般的な舞台劇や歌劇を行う劇場とは異なったものでした。M₂課長・Y₁課長補佐・I職員などからそれぞれの業務に関して詳細な説明をして頂いたことにとっても感謝しております。それにより我々は日本芸術文化振興会という組織やその運営方法、歌舞伎で用いられる「花道」や乗降設備、半月型の天幕や専門に使用される景色映像、舞台裏の休憩室や楽屋等に関して今回の訪問だけでとても詳細に知ることができました。能楽堂は渋谷区にあり、I₁部長自らの案内により、能楽堂の役割、劇場施設の管理方法、能と狂言の演出形式などに対してとても明確な知識を得ることが出来ました。能楽堂の舞台設計は日本独特の雰囲気漂わせております。私たちはこっそりと能の練習の一部を覗かせて頂きましたが、私は能楽堂の舞台と観客席の設計が醸し出す美しさや魅力に虜になりました！

さいたまスーパーアリーナは27日の重要訪問地でした。東京から上野まで行き、そこで乗り換えてさいたま新都心駅へと向かいました。さいたまスーパーアリーナとは新都市商業センターと多機能体育文化センターが融合したものであり、ハード面であるインフラや経営管理経験に関して見習うべき価値があるだけでなく、最も特別であったのは、政府が外部委託業者と上手に共同で行っている運営しているシステムです。公務員を経営チームに加入させアリーナの管理を行うことで、公務員が経営に参加し、その監督責任を果たすとともに、出向している際の給与は出向先団体によって支払われるため国庫からの支出を抑えることができるのです。また将来的に万一経営を引き受ける組織がいなくなったとしても、政府はいつでも経営管理を行える体制を整えており、これはとても聡明な手段です。

六本木にある国立新美術館は建築家の権威である黒川紀章氏が設計したことで有名であります

が、最大の特徴は美術館に全く所蔵品がないことです。そこはただ世界クラスの美術展覧会を行う優れた展示場であるということ。もちろんこれはとても新しい考え方であり、美術館経営に対する試練でもあります。東京駅から16:30にのぞみ49号に乗車し、新神戸駅に到着しました。夕食は優雅にも私たちが宿泊するホテルで「神戸ビーフ」を賞味しました。同時に神戸の夜景も堪能でき、忙しかった一日の疲れは梅酒とともに消え去っていきました。

28日の主な参観場所は神戸の著名な西洋伝統建築保存区・北野異人館です。北野山に沿って建築された外国人（駐日代表や商人）の家（または別荘）は異なった外観の建物が並んでおり、まるで早期の万国博覧会のようなものでした。完璧に保存された歴史建築群は神戸市の宝であり、人気のある観光スポットとなっています。有名なカフェ、フロインドリーブ本店でサンドイッチの昼食を頂きました。そのカフェは歴史のある教会を改装したもので、上を見上げると綺麗なステンドグラスがあり、無意識に幸福感を感じる場所でした。

宝塚劇場の訪問と宝塚歌劇団公演の鑑賞は私にとっても期待していた場所の一つです。劇場に到着すると「不可思議」という言葉でしか形容できないものでした！以前日本の宝塚歌劇団に対しては曖昧な印象しか持ち合わせていませんでしたが、今日それを拝見したことで視野が大きく広がりました。宝塚歌劇団ファンの熱狂ぶりはAKB48のそれに劣らないのです！

宝塚歌劇団は五組に分かれており、劇団員の総数は400名を超えます。私が拝見した演目は「月組」による「ロミオとジュリエット」でした。2700席がほぼ全て埋まり、観客は日本全国から訪れています。30歳から50歳の女性が多いですが、年老いたご夫婦や若いカップル等も少なくはありませんでした。劇団の特色として劇団員は全員容姿端麗で歌も踊りもできる妙齢の女性だとい

うことです。男装をする劇団員は他に背が高く、外見の美しさも兼ね備えていなければなりません。男役のトップには大抵多くのファンがいるのですが、その様子はまるで台湾オペラで人気を博した楊麗花や葉青にとってもよく似ていました。メインの歌劇以外に、20分にもわたるフィナーレは特別で、それは華麗さと娯楽性が満ちているブロードウェイ歌舞のようで、忘れられないハッピーエンドのショーでした。宝塚歌劇団が私たちをこんなに素晴らしい劇に招待して下さったことに感謝申し上げます。しかし私が最も驚嘆させられたことは歌劇団の企業化・集団化の経営方法でした。専門の劇場があるだけでなく、舞台製作や演出、音楽、舞台設計、チケット販売システム、営業部、商品開発など完璧な公演産業の輪が出来上がっており、日本公演産業の伝説を作り上げているのです。企画室のM₃室長及びK₁副室長と一緒に夕食を共に致しましたが、その場では来年台湾で行われる公演に関して多くの意見交換ができました。M₃室長が10月に台湾を訪れる際、時間を作って高雄においで頂き、高雄で公演できそうな場所を事前に視察頂くことを期待しております。そして将来宝塚歌劇団を高雄にお呼びし公演頂ける機会があることを望んでいます。

日本の歴史と文化の都・京都は最終日に訪れた街でした。最初に公益財団法人京都古文化保存協会常務理事でいらっしゃるG女史を訪問し、常務理事の説明を通じて京都の民間組織による文化保存の参与方法とその効率と実績に関して十分に理解することが出来ました。昼食は幽静な日本庭園で伝統料理・湯豆腐を堪能致しました。午後には天皇の故居である京都御所を訪れました。ここは事前に予約が必要となり、ガイドを務めて下さった方は御所内の施設や史跡を生き生きと説明して下さいました。数羽のカラスが木々の間を飛んで

いき、私たちに遠い昔の物語を聞かせてくれているようでした。その夜は日本の伝統的な京町家に宿泊致しました。歴史建築を修復した京都の「庵」のN₁室長が特別に我々のために古民家の保存及びその活用に対する理念と方法を説明して下さいました。私たちが宿泊した美濃屋はもともと耳鼻咽喉科を営んでいた家族が住んでいた建物で、表側はその地域に住む人々のための診療所となっていました。小さな中庭を隔てた奥は鴨川の流れる望める二階建ての住居です。目の前には青々とした山々が連なり、景色が素晴らしい場所でした。建築家によって古い町家の良さを残しつつ、最低限華美でない程度に現代的設備が備わっています。それにより宿泊者は京都の奥深い文化を体験できると同時に現代的で快適な居住空間を享受できるのです。広々として気持ちのいい畳の間に寝転ぶと、その日の夜はととてもよく眠ることができました。今後京都に行く機会があれば必ずここにもう一度宿泊したいと思います。

6泊7日の日程を終えて、私たちは日本文化や日本という場所、日本人、事や物に対して一歩進んだ理解を得ることができました。日本と台湾は地域や歴史に於いて切り離せない関係にありますが、今後日台の文化活動に於いてはより多くの関係を結び、展覧や公演、文化創造産業などの分野で協力する機会を得ることを望んでいます。交流協会高雄事務所の各位及び東京本部の各位には今回の招聘での心配りのある日程手配とアテンドに感謝申し上げます。そして招聘終了後の7月26日に野中薫所長がわざわざ宴を設けて下さり、招聘の感想を共有させて頂きました。今回の招聘事業は日程とその内容全てが非の打ち所がないほど素晴らしく、日本人の周到な計画とそれを確実に実行する態度を再度確認することができました。